九州大学学術情報リポジトリ
Kyushu University Institutional Repository

九州大学百年史 第5巻 : 部局史編 II

九州大学百年史編集委員会

https://doi.org/10.15017/1547170

出版情報：九州大学百年史. 5, 2015-12-25. Kyushu University
バージョン：
権利関係：

九州大学百年史

第　5　巻

部局史編Ⅱ

序

九州大学は 1903（明治 36）年創設の京都帝国大学福岡医科大学をその直接の前身として、1911（明治 44）年、4 番目の帝国大学として創立されました。2011（平成 23）年に創立 100 周年を迎え、次の 100 年に向けて、常に未来の課題に挑戦する大学であり続けることを目指しております。

大学の使命は、学問をたゆまず進歩させ、科学・技術・文化など万象に接し、過去と未来を結ぶ時間軸の中で真理を探究し、その先へ向かって叡智の光を放っていくことです。『九州大学百年史』は、九州大学がこれまでどのようにその使命を果たしてきたのかを、内外に積極的に公開することを目的として編集されています。本書を通じて九州大学の歴史を広く知っていただくとともに、今後の九州大学のあり方について、示唆や指針を得る手がかりとしていただきたいと存じます。

『九州大学百年史』は通史編・部局史編・資料編から構成され、本巻は部局史編の第Ⅱ巻として公開されます。本巻には理学府・理学研究院・理学部、数理学府・数理学研究院、医学系学府・医学研究院・医学部、歯学府・歯学研究院・歯学部、薬学府・薬学研究院・薬学部、工学府・工

学研究院･工学部の 6 部局を収録いたしました。各部局が、それぞれの創設から現在までの独自の歴史のなかで、どのように教育・研究を展開・発展させ、広く社会に貢献してきたか、詳しく叙述されています。

九州大学では 2006 年に百年史編集ワーキング・グループを設置して百年史編集事業の検討を開始し、2007 年に百年史編集委員会を、2009 年に大学文書館に百年史編集室を設置して『九州大学百年史』の編集を行ってまいりました。本年 6 月からは、編集作業を加速化させるため、百年史編集室を大学文書館から独立させて、担当理事を室長としております。『九州大学百年史』は、大学史では初めての試みとして WEB 上での公開を主体とし、これまで 3 巻の公開を開始しております。インターネット環境さえあれば本書をご覧いただくことができますので、九州大学の卒業生、在学生、教員・職員のみならず、他大学の関係者、大学史等の研究者、地域や企業のみなさまなど、九州大学とその各部局に対して関心をもっていただいている多くの方々のご高覧を賜りたいと存じます。

九州大学は 2005 年より伊都キャンパスへの統合移転を開始しております。本巻収録の部局のうち、まず工学府・工学研究院・工学部が移転し、次いで数理学府・数理学研究院、そして本年 10 月には理学府・理学研究院・理学部が移転いたしました。今後はこの伊都キャンパスを「グロ

ーバル・ハブ・キャンパス」として、世界最高水準の研究、イノベーション創出とグローバル人材の育成など、世界のトップ百大学への躍進を目指した取り組みを推進していきます。また、医学系学府・医学研究院・医学部、歯学府・歯学研究院・歯学部、薬学府・薬学研究院・薬学部につきましては、病院キャンパスにおきまして、先端医療による地域と国際社会への貢献を行ってまいります。

本巻の編集にあたっては、卒業生・旧職員ほかのみなさまから資料提供等のご協力を賜りました。また、各部局の教員・職員各位には執筆等の労を執っていただきました。ここに厚く御礼申し上げます。

2015（平成 27）年 12 月

九州大学総長　　久 保 千 春

凡　　例

1　本巻「部局史編Ⅱ」には九州大学の部局のうち以下の 6 部局を収録した。収録対象部局は 2010（平成 22）年 3 月 31 日時点で存在している部局とし、部局名も原則としてその時点での部局名とした。

理学府・理学部・理学研究院

数理学府・数理学研究院

医学系学府・医学部・医学研究院

歯学府・歯学部・歯学研究院

薬学府・薬学部・薬学研究院

工学府・工学部・工学研究院

2　各編で記述される期間は、原則として当該部局の創設から 2012（平成 24）年 3 月 31 日までとした。ただし当該部局の前身となる部局が存在する場合はその部局についても記述した。また、2012 年 4 月 1 日以降について、各部局の判断で記述した場合がある。

3　部局史編は、九州大学百年史編集委員会において決定した編集方針に基づき、各部局史編集組織の責任で執筆・編集されたものである。

4　本文の漢字表記は常用漢字・現代かなづかいを用いた。ただし人名等の固有名詞についてはこの限りではない。

5　引用資料は漢字を原則として常用漢字体に改めたほかは原文どおりの表記とした。ただし、ふりがな・傍点・傍線等は原則として省略した。

6　年紀は西暦で示し、適宜元号を補った。

7　敬称は資料提供者名以外は省略した。敬語は用いないこととした。

8　本文中の図（写真を含む）・表には編ごとに番号を付した。例えば、第 9 編の第 1 図を「図 9-1」のように示した。

9　資料編各巻に収録した資料については、収録した資料編の巻号と資料番号、頁数を示した。例えば資料編Ⅰの 100 番資料 262 頁を「資料編Ⅰ－

100、p.262」のように示した。

10 各編の記述内容には、『九州大学五十年史』通史・学術史に依拠した部分があるが、煩を避けるため、原則として逐一出典を示さなかった。

11 頁は編ごとに頁数を付した。例えば第 9 編の 3 頁を「9-3」のように示した。